

「島田川にすむいきもの観察会」報告

講座名	ひかりエコ・自然塾 島田川にすむいきもの観察会		
日時	平成22年5月29日(土) 13:30~16:00		
場所	光市地域づくり支援センター 島田川汽水域	参加者数	45人

1 スケジュール

13:00~	集合、受付
13:30~13:40	開会、あいさつ・講師紹介等
13:40~14:40	講話
14:40~14:45	島田川へ移動
14:45~15:40	島田川汽水域で水生生物調査、観察
15:40~16:00	まとめ、アンケート、解散

2 活動内容(別紙地図参照)

光市地域づくり支援センターに集合、主催のひかりエコメイトから開会の挨拶、光市環境部環境政策課長、環境学習推進センター、講師の紹介等がありました。引き続き、講師の奥田賢吾氏による講話のあと、島田川汽水域で実際に生きもの調査、観察を行いました。自然界で魚などたくさんの生きものが一生懸命に生きていることのすばらしさ、その環境を守ることの大切さを学びました。

概要：川とふれあい、親水意識を高め、水生生物や水辺の環境に興味や関心を深耕し、自然を敬愛する精神を醸成する。

【開会・あいさつ等】



【奥田賢吾氏による講話】



光市在住の画家である奥田賢吾氏の講話が行われました。

「広島県から山口県光市に来てから、魚の絵を描いてみよう、川に入り魚を捕ろうとするも3年はうまく取れませんでした。何故捕れないのかと不思議に思い、図書館などに行き、魚の生態を徹底的に調べ、生態学を学んだのです。それから魚がどういう場所を好み、どういうふうに生きているのかがわかったので、魚を捕ることができるようになりました。それから島田川の調査だけでなく、山口県内各地の川を歩き、魚の生態を調べました。続けてやっていると、全体の魚の生き方がわかってきます。5、60種類調べあげるのには12年ほどかかりました。現在は魚だけでなく、モリアオガエルやサンショウウオなどの生態も調べています。「自然を調べるにはとにかく歩け!」ということなので、朝から晩まで歩きまわります。例えば、厚東川の下流から上流まで調査するのには3ヶ月かかりました。

島田川では魚類が70種類以上確認されています。同じ川の中で数種類の魚がテリトリーを持ってちゃんと棲み分けしています。食べるものも違えば、上流域、中流域、下流域、水質も異なるところに生息していて、そこにはちゃんと生態系ピラミッドが成り立っているのです。スナヤツメ、アカザ、ルリヨシノボリなど12種類もの絶滅危惧種が30分のうちの捕れる川はほかにないと思います。

ハゼは石の隙間に卵を産み付けるのですが、先日の大雨で流砂があり、浮き石がなくなっていました。自然界ではちょっとした変化でも生きものに大きな影響をもたらします。

調査をして歩きながら、魚や生きもののために保護、土地の保全が必要なところがあれば、その土地の持ち主さんときちんと話や説明をしてお願いをしたりしています。協力的ではない地主さんもいらっしゃいますが、魚やカエルたちのためにほんの少しの水路を残して欲しいなどという話をきちんとお話して帰ると、次に訪れたときにその水路が出来ていることがあって、ほんとうれしく思ったことがありました。

一生懸命生きている生きものたちと自然を愛することが一番大切で、その心を持っていて欲しいと思います。



抽選で奥田氏作の魚の絵本をプレゼントされました。

【島田川汽水域で水生生物調査】 調査、まとめ



幼児、小学生の参加もあり、川で調査する際の注意事項をひかりエコメイトの藪さんから説明がありました。

- ・ 急に深くなっているところがある
- ・ 流れが速いところ
- ・ 砂地は歩きにくいので足をとられる
- ・ 子どもはライフジャケット着用

・・・など



網でガサガサすくってみる。子どもも大人も夢中になっていました。オタマジャクシ、エビ、コオイムシ、ヤゴ、カニが捕れました。



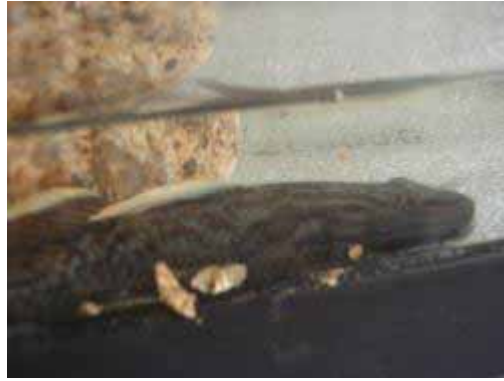
みんなで集まってバケツに入った生きものの観察会。魚(ハゼ)を捕まえた子も。



奥田先生は下流のほうで、チチブ(ハゼ)を何匹か捕獲。ウナギの稚魚やドンコもいたようです。子どもたちは水槽に手をつっこみ、魚やらエビやらを掴んで喜んでいました。(弱ってしまう・・・) ドンコ、テナガエビ、スジエビ、オタマジャクシ(ウシガエル)、チチブ、コオイムシ、ヤゴ(コオニヤンマ)、ウナギ、なんかの稚魚などなど・・・

じゅうぶんに観察した後、みんなで生きものたちを川へかえしました。

【水槽展示】講話を行った研修室にて



オオヨシノボリ



ウナギの稚魚



さかな



テナガエビ



ウキゴリ



カニ



アカザ



ルリヨシノボリ

展示された生きものたちは、終了後、採集した場所に放流されました。

【感想】

奥田氏の講話では、奥田氏が自然と生きものに対し愛情を持ち、とても大切にしたいという思いが、話をとおしてすごく伝わってきて、いいお話を聞くことができました。自分の足で歩き、調査をしながら自然を守ることの大切さを伝えるためには、地域の方ときちんと話をする、コミュニケーションをとることは必要なんだと思いました。

生きもの調査では、晴天の下、穏やかで割ときれいな水の島田川に入り、大人も子どももみんな一生懸命生きものを探していました。川辺に繁茂しているヨシの中から、オオヨシキリが盛んに威嚇の鳴き声をあげていました。奥田氏の生きものの説明も大変わかりやすく、参加者は皆熱心に耳をかたむけ、観察していました。「島田川の自然を再認識できた」「多くの生きものがいることに驚きました」「魚をさわったことが楽しかった」という感想をいただきました。